

財務戦略

強固な財務体質の確保と高い資本効率を両立し、持続成長可能な財務基盤を築き、企業価値向上を図っていきます。

強固な財務体質と高い資本効率の両立による戦略的な経営資源の配分

①強固な財務体質

持続的な成長のための将来に向けた研究開発投資や設備投資の実施と共に、機動的な戦略投資(M&A、提携などを含む)への備えやリスク耐性も考慮した上で、総資産のうち、2/3以上を自己資本にて構成し、2～3ヶ月程度の十分な手元流動性を確保することとしています。財務健全性を維持した財務体質を構築しており、D/Eレシオは0.1倍以下となっています。

②設備投資

企業価値の向上に資する設備投資を積極的に行っていきます。新機種投資や高精度生産設備のほか、自動化・効率化・省エネ化生産設備や、生産性・業務改善のためのシステム投資等を行っています。

2021～2023年においては、3年間累計で約100億円の設備投資を予定しており、2018～2020年の3年間累計に対して約20億円増と、中長期の成長を見据えて一段と設備投資を強化していきます。

③研究開発投資

グローバルな光学メーカーとして、高水準な技術を維持・向上させ、さらには長期的な視野でのソーシャルニーズへの貢献、イノベーションの創出のため、研究開発投資は欠かせないものと考えています。

2021～2023年においては、3年間累計で約150億円の研究開発投資を予定しており、2018～2020年の3年間累計に対して約10億円増加させます。各年度としても2015年以前は売上高比5%前後でしたが、順次引き上げ、売上高比8～10%としています。

④株主還元、資本政策

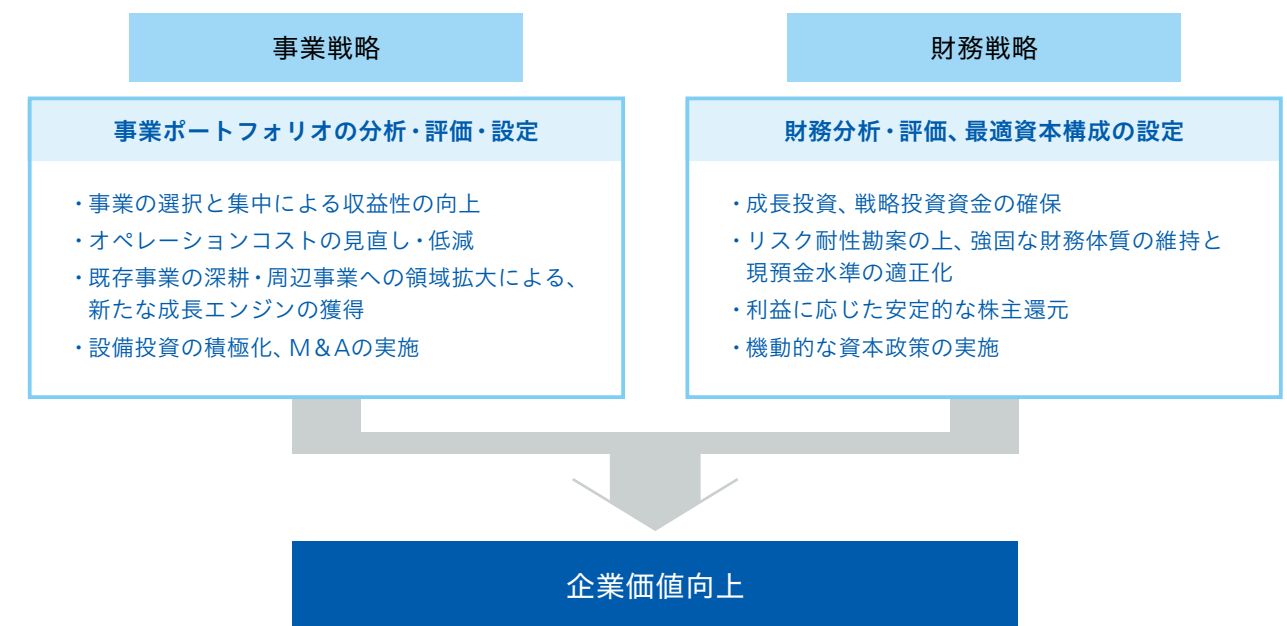
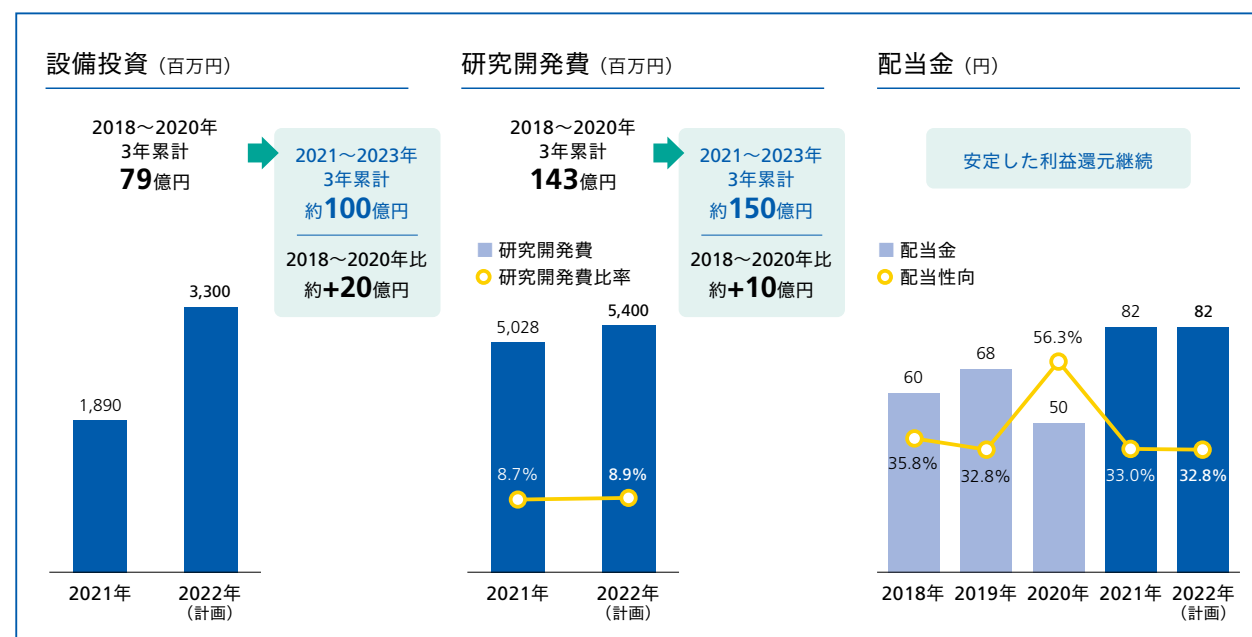
成長投資を着実に利益成長へ結び付け、EPS(1株当たり当期純利益)の増加を図り、業績に応じた利益配分として、安定した利益還元の継続を基本方針としています。

また、市場の状況や財務状況、資本効率などを踏まえて自己株式の取得等の資本政策を機動的に実施していきます。

ROE向上への取り組み

ROE (構成要素)	=	収益性 純利益 売上高	×	資産効率性 売上高 総資産	×	財務 レバレッジ 総資産 純資産
		↓		↓		↓
主な取り組み		収益性の向上 ・開発、生産コストの低減 ・オペレーションコストの低減		資産効率性の改善 ・資産回転率の向上 ・ROAの向上 ・CCC(キャッシュ・コンバージョン・サイクル)の短縮		株主還元の充実・資本政策の実行 ・配当性向35%程度に基づく継続的な株主還元 ・機動的な資本政策の遂行
成果 (2020年⇒2021年)		・粗利率: 38.0% ⇒ 40.3% ・販管費比率: 30.6% ⇒ 27.5% ・実行税率低減		・総資産回転率: 0.8回 ⇒ 0.9回 ・ROA: 5.9% ⇒ 12.0% ・CCC: 146日 ⇒ 145日		【2020年】 ・自己株式取得(発行済株式総数に占める割合: 18.87%、取得額: 89億円) 【2021年】 ・自己株式消却(消却前発行済株式総数に占める割合: 3.66%) ・過去最高年間配当金82円

事業戦略と財務戦略の両輪による企業価値の向上



成長性と効率性を両立し、持続的な成長ができる企業体質